

資源ごみ及び容器包装の売払い等による収入とその使途の状況

・資源ごみ売払い収入の状況（平成29年度～令和元年度）

単位：円

年度	紙類	缶類	金属くず	瓶類	廃食用油	繊維資源	発泡スチロール	その他	合計
平成29	75,469,729	42,757,111	3,265,718	557,586	122,805	75,075	72,234	3,984	122,324,242
平成30	75,770,303	30,254,645	2,934,459	502,084	118,845	202,531	58,699	4,551	109,846,117
令和元	51,821,738	32,510,842	2,120,192	413,402	127,140	164,265	34,763	3,371	87,195,713

・指定法人（公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会）からの収入の状況（平成29年度～令和元年度）

指定法人からの収入には、有償入札拠出金と再商品化合理化拠出金の二つがあり、それぞれ下表のとおりとなっています。

単位：円

年度	有償入札 拠出金	再商品化 合理化拠出金	合計
平成29	10,588,956	3,888,593	14,477,549
平成30	10,063,958	71,814	10,135,772
令和元	11,179,894	428	11,180,322

※ 有償入札拠出金とは

指定法人（公益財団法人日本容器包装リサイクル協会）が、各自治体から引き取ったペットボトル等の再商品化委託入札を行う際には、有償入札が認められています。有償入札で得た収入は、それぞれの自治体に落札単価と引き取り量に応じて支払われます。

※ 再商品化合理化拠出金とは

指定法人（公益財団法人日本容器包装リサイクル協会）が各自治体から引き取った収集物を再商品化した際に、その費用が想定していた費用を下回った場合は、その差額の2分の1が分別の質が優れている自治体に支払われます。

・収入合計（平成29年度～令和元年度）

単位：円

年度	資源ごみ 売払収入	拠出金 収入	合計
平成29	122,324,242	14,477,549	136,801,791
平成30	109,846,117	10,135,772	119,981,889
令和元	87,195,713	11,180,322	98,376,035

・資源ごみ売払い収入、指定法人からの収入の使途（平成29年度～令和元年度）

単位：円

年度	環境緑化 基金	ごみ収集 業務費	廃棄物処理場 運営管理費	合計
平成29	30,581,060	45,871,591	60,349,140	136,801,791
平成30	27,461,529	41,192,294	51,328,066	119,981,889
令和元	21,798,929	32,698,392	43,878,714	98,376,035

※ 平成9年4月から、資源物分別収集開始に伴い、資源ごみ売払い収入の一部を環境緑化基金として積み立てし、地球環境保全、廃棄物の発生抑制・減量化、資源化等の有効利用の推進のために使われています。

※ 平成21年度から、資源ごみ売払い収入については、25%を環境緑化基金に、残額はごみ収集業務費と廃棄物処理場運営管理費に1/2に相当する額をそれぞれ充て、指定法人からの収入については、廃棄物処理場運営管理費に充てています。